

4 海外等における販路開拓活動の結果 (令和4年度補正品目団体輸出力強化支援事業)

日本青果物輸出促進協議会

三重県農林水産物・食品輸出促進協議会農産部会実施分

香港：令和5年（2023年）11月30日から令和5年（2023年）12月2日

タイ：令和5年（2023年）12月18日から令和5年（2023年）12月22日

台湾：令和6年（2024年）1月17日から令和6年（2024）年1月23日

タイ かんきつ（温州みかん）

4411

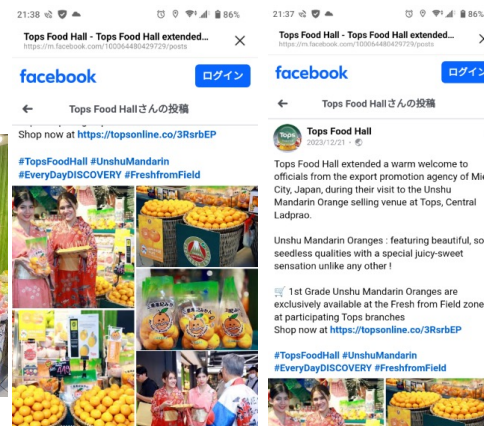
A:タイ かんきつ（温州みかん） 4411

実施期間（2023年12月18日から12月22日）

▶ 輸出青果物の販促実施方法及び内容（量販店等名、SNS広告宣伝）

- ・セントラルプラザ・ラットプラオ店にてマネキンを活用し、温州みかんの試食宣伝活動を実施
- ・セントラルグループ（Tops Food Hall）のFacebookにて、温州みかんの販売を告知

▶ 店頭やSNS広告の画像



▶ 販促の内容（とバイヤーヒアリング）を踏まえたコメント

- ・マネキンを活用し試食販売のプロモーション活動を実施した。店頭価格449bt/Kで販売し、販売形態については、主にロゴ入りのスタンドパックや化粧箱1.25kgでの販売が中心。
- ・試食の反応については、「糖度が高く甘くておいしい」、「皮が剥きやすく種がないため食べやすい」等好評をいただき、試食後に購入されるお客様が多く見受けられた。
- ・販売店輸入果実担当バイヤーからは、マンダリンは年中販売しているが、三重南紀みかんは「綺麗で美味しい日本産みかん」として12月販売が定着している。今後、輸入数量が増えれば販売店舗を拡大していきたいとの声があった。

B:タイ かんきつ（温州みかん） 実施期間（2023年12月18日から12月22日）

4411

セントラルプラザラットプラオ店及びセントラルワールドにて市場調査を実施

▶ 競合青果物の販売状況コメント

- ・タイ産、中国産、韓国産のみかんや豪州産、ニュージーランド産のオレンジが多く流通
- ・タイ産、中国産は安価であるが傷や黒点病が多く、外観は重視されていない。また、品質のバラツキも大きい。
- ・韓国産、豪州産については外観もよく、品質が良好で人気を集めており、日本産の競合相手となっている。



タイ産カンキツ（139baht/kg）



豪州産カンキツ（190baht/kg）



（参考）
日本産みかん（449baht/kg）

C:タイ かんきつ (温州みかん) 4411 実施期間 (2023年12月18日から12月22日)

以上を踏まえた、今後の対応コメント

- ▶ バンコクの人口は800万人を超え、内10%程が富裕層と言われる。コロナ過で世界的に経済の低迷が続いていたが、今回タイ視察を行った中では人流もコロナ過前に戻っていると感じられたことから、引き続き富裕層をターゲットとし、販売の拡大を目指す。
- ▶ セントラルグループのバイヤーからも12月は日本のみかんを待っている。購買力は有るのもっと輸出を増やして欲しい旨の話を伺った。
- ▶ 三重県産の輸出開始から13年が経ち、規制も徐々に緩和され出荷効率が改善されてきた。しかしながら長期にわたる輸送及び保管による「傷み」「果形の変形・つぶれ」等のロス果の発生は依然解消されず、品質保持及び残留農薬基準への対応が当面の課題となっている。
- ▶ 今後は、旧正月に向けた新しい品目（早生温州の次の品種）の輸出にも取り組み、販売期間を拡大する予定。